

科目名	専門演習Ⅱ SeminarⅡ						
科目担当者	出山 実 IDEYAMA Minoru						
単位数	4	配当年次	3年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 演習]					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	<p>会計学の強みは、「測ることによって改善できる」ことです。近年の会計学の役割は、従来の利益計算や企業実態の報告だけにとどまらず、気候変動問題や人権問題、ガバナンス問題などを、どのように測って伝えていくのかという「企業と社会の持続可能性」にまで広がりを見せています。専門演習Ⅰの学習を受けて、専門演習Ⅱでは、新たな会計問題（持続可能性に関するディスクロージャー(ISSB)、国際財務報告基準 (IFRS) に関する会計学など)を研究テーマとして設定し、より深い学習へと段階を進めていきます。</p> <p>本演習の進め方は、毎回、テーマを設定し、その内容についてグループ学習を行います。各グループの報告を受けて、ゼミ生全員でディスカッションを行います。なお、新聞の経済記事に関する討議も合わせて行います。</p>						
授業の到達目標	<p>①持続可能性に向けた経営学と会計学の理論を身に付ける。</p> <p>②持続可能性に関する討論を行うことができる。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション：IFRS財務会計入門	16	オリエンテーション：揺れる現代会計			
	2	報告と討議<1>IFRS 会計とは何か①	17	報告と討議<1>開示優位の現代会計			
	3	報告と討議<2>IFRS 会計とは何か②	18	報告と討議<2>資本主義の多様性と IFRS			
	4	報告と討議<3>IFRS 会計のマインド	19	報告と討議<3>市場・企業・社会と会計			
	5	報告と討議<4>IFRS の見方・考え方①	20	報告と討議<4>「会社とは何か」と会計			
	6	報告と討議<5>IFRS の見方・考え方②	21	報告と討議<5>フィディシャリーと会計			
	7	報告と討議<6>IFRS 財務諸表作成の考え方	22	報告と討議<6>不確実性と現代会計			
	8	報告と討議<7>財政状態計算書の基礎	23	報告と討議<7>貸借対照表の現代的変容			
	9	報告と討議<8>包括利益計算書の基礎	24	報告と討議<8>OCI は何処から来るのか			
	10	報告と討議<9>財政状態計算書の構成要素	25	報告と討議<9>OCI の諸相			
	11	報告と討議<10>財政状態計算書の役割	26	報告と討議<10>会計の政治化と規制			
	12	報告と討議<11>包括利益計算書の構成要素	27	報告と討議<11>現代会計の歴史性			
	13	報告と討議<12>包括利益計算書の役割	28	報告と討議<12>概念フレームワークの制度性			
	14	報告と討議<13>キャッシュフロー計算書	29	報告と討議<13>現代会計の変容をどう見るか			
		15	前期まとめ	30	後期まとめ		
授業外学修 (事前学修)	<p>報告者：担当箇所のテキスト（及び新聞記事等）を要約し、報告の準備をしてくる(3時間)</p> <p>報告者以外：教科書（及び新聞記事等）の対象範囲を読んできて、討議の準備をしてくる(2時間)</p>						
授業外学修 (事後学修)	<p>演習での討論を受けて、どのような話し合いがあったのか、自分はどのように考えるかについてまとめる(2時間)</p>						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	報告と討議				100%	①②	
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	<p>広瀬 義州『新版 IFRS 財務会計入門』中央経済社</p> <p>石川 純治『揺れる現代会計』日本評論社</p>						
参考文献							
その他	<p><どのような学生の受講が望ましいか></p> <p>・会計の分野に興味がある学生・応用レベルの会計知識を身につけたい学生 ・将来、経理・財務担当者、銀行員、商業科の教員になりたい学生</p> <p><あらかじめ受講して欲しい科目></p> <p>会計学、簿記論 (or 上級簿記)、経営分析、財務諸表論、管理会計論、原価計算論 <併行して受講して欲しい科目></p> <p>会計監査論、税務会計論、環境会計学</p>						